### 懴 館で用いる分類

Classification for Museums

典 Tuneo YOSIMURA

## Abstract

"To classify" in museums may mean 1) to design a classification scheme of system, 2) to decide or identify classification codes suitable for museum items or information, or 3) to arrange physically museum items in show-cases or on shelves.

Classification serves for two purposes: 1) to present systematic recognition of the collection, and 2) to enable to retrieve required items of information from the storage in which they are arranged.

There are two systems of classification: 1) the pre-coordinated classification system which is commonly used in case of physical items, and 2) the post-coordinated classification system which is often used for the storage and retrieval system of information.

In case of the pre-coordinated classification system, the items of common attributes are grouped together, and then each group is devided into sub-groups repeating the similar process. In case of the post-coordinated classification system, several independent view-points are selected as features of top-classes, and then each groups are devided into sub-classes by repeating the similar process. When the system is applied, all appropriate classification codes are assigned to the item or information to be classified.

Several remarks are made for designing a post-coordinated classification system and a model of postcoordinated classification systems applicable for information retrieval in agricultural museums are described.

## 1. はじめに

分類と密接に関連する.

学芸職員や利用者が行う研究のうち、重要な地位を占 博物館の重要な諸機能のうち、資料の保管、展示、資 めるものは、資料の同定や資料を利用した標本等の同定 料に関して学芸職員および利用者が行う研究は,すべて である.資料の保管にあたっては,資料の特性にもとづ いて整理排架が行われる、展示は、その作成にあたって、

\* よしむら つねお 東京農業大学博物館 • 情報学研究室 Laboratry of Science Information, Tokyo University of Agriculture

原稿受理: 1982年12月30日 連絡先(勤)

〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学 Tel 03-420-2131

Phase	目的	行 動	名 称
1	分類法を作成する.	分類対象である概念を,必要とする視点から見て,似た性質を持つものをまとめてひとつのグループとし,全体をいくつかのグループにする.	分類(Classification)
2	対象事物が、分類法のどのグ ループに属するかを決める。	個々の対象事物の性質を調べ 分類法のグループの概念との 一致を見出す。	同定(Identification) 索引づけ(Indexing)
3	対象物を整理する.	Phase 2 の結果にもとづいて, 対象物を最適な場に置く。	排列(Sorting) 排架(Arrangement)

表 1. 分類行動の 3 つの Phase

何等かの視点で資料を区分し、区分の結果を互いに関連 んで書き出すことは、機械でもできる。第3の区分は、 づけてひとつのストーリーを構成する。 資料目録は資料 少なくとも定形の郵便物については、自動区分機を用い を整理区分し、その特性を記載したものである。

同定、整理、排架および区分、ということばで示されいうまでもない。 るひとの行動の内容は、いずれも"分類"ということば で示される行動の1部であるといえる。

## 2. 分類の意味

分類ということばは、普通に用いられることばである。 しかし、その意味は多義にわたる。大別すると、つぎの 3. 分類 (Phase1) の目的 3種になろう。

第1は、「分類法」のことである。これは事物を整理 2つに大別できよう。 するための規則を意味する。

第2は、「分類法を表示した分類表」のことである。 第3は、ひとの行う「分類行動」である。

味があると考えられる.

記入することである。Phase 3は、記入された郵便番号に 史の研究であり、その結果として時代区分が得られる。 もとづいて、郵便物を配送地域別に区分することである。 物質を構成原子と分子構造に着目して認識することが、 に記入すべき郵便番号を決めることは、普通はひとが行 分類法が得られる. う.しかし、たとえばワードプロセッサを利用すること 第2は、事物を蓄積するにあたって、これを整理し、

て行うことができる。ひとが行うこともできることは、

Phase 1 の分類の結果は、Phase 2 を拘束し、Phase 2 の (分類の)結果はPhase 3を拘束する。反対にPhase 2の 分類は、Phase 3 の分類に配慮して行われ、Phase 1 の分 類はPhase 2の分類に配慮して行われる。

博物館において分類 (Phase 1)を行う目的は、つぎの

第1は、Classification 自身を目的とする。すなわち、 事物をグルーピングあるいは区別し、体系づけて認識す ることである。その結果として得られるものが分類法で これらのうち、第3の分類には表1に示す3種類の意 あって、認識分類法と呼ぶことができる。生物進化の過 程を形態に着目して認識することが形態学的生物分類の 身近な例を、郵便に関係することにとる. Phase 1は、研究であり、H.G.A Englerらによって大成された生物 郵便希号の体系を作ることである。 Phase 2は、差出人が 分類法がその結果の1 例である、過去から現在までの時 受取人の住所から郵便番号簿を見て、郵便番号を決定しを、人間社会の構造の変化に着目して認識することが歴 郵便番号を作るのは、ひとでなければできない。郵便物 無機,有機化学研究の基本であり、その結果として化学

とし、この機械に郵便番号表を記憶させておけば、機械 後に多くの事物のなかから必要なものを取り出すために に宛先の住所を打ち込むことによって、適切な番号を選 用いる、分類法を作ることが目的である。

この分類法は、取扱う対象によって2つに大別できる。 は展示の位置へ行けばよい、 1つは、"もの"を対象とする場合であって、物品排架 (展示・収蔵)用である。他の1つは、概念を対象とす る場合であって、概念(情報)検索用である。

情報検索用分類法は、適用のしかたによって、物品の 排架に用いることが可能である。しかし、物品排架用分 通である。したがって、ひとつの資料には複数の分類項 類法を、資料の持つ情報の検索用に用いることは著しく 不便であり、情報需要者の要求にこたえられない場合が 多い、このことは、元来情報検索のために作られている け、各視点の範囲内で必要な細分をして分類項目とする。 筈の博物館資料目録が、その作成者以外のひとや異った 専門分野のひとが利用するには、極めて不便である場合 必要な視点が生物の種類と地域であるとする。この分類 が多いという事実に照らしてもあきらかである。博物館 表として、図2が考えられる。この分類表は、生物区分 に収蔵されている歴史的な資料, たとえば民俗資料を, 農業技術の立場から、目録によって検索することは現実されていない。 には甚だしく困難である。

## 4. 博物館で利用する分類法

## (1) 排架用分類法

収蔵または展示にあたって、資料の置き場所を決める む. ための分類法である。ひとつの資料または資料群は、当 時に他の分類項目に属することはあり得ない。 したがっ 分類法になる。 て, 分類法の作成時に, 必要と考えられるすべての項目 を、他の項目から独立させて、表のなかに設けておかな 5. 分類法の作成と利用 ければならない.

たとえば、日本の生物に関する標本を収蔵または展示 するとする。まず生物全体を動物と植物に区分し、つぎ び属性としてなにを考えるかは、目的によって決まり、 にそれぞれを各地方に区分するとした場合、分類表(第 その順序については、理論的な必然性は必ずしもない。 2階層まで)は図1に示すとおりになるであろう。

この分類表は、生物区分と地理区分とを、組合せて め組合せた項目を作っておく分類方式を,事前(Pre coordinate)方式という。また、動物・植物の各第1 多くなる。

どれが優先するかについての理論的根拠は乏しい。

## (2) 情報検索用分類法

資料から得られる情報, あるいは得ようと期待する情 報を持つ資料を検索するための分類法である。

ひとつの博物館資料は、多種多様な情報を持つのが普 目が Index (検索のためのキー)として付与される。

分類法の作成時には、互いに独立した視点を必要数設 たとえば、日本国内の生物分布に関しての情報を扱い、 と地理区分とが互いに独立であり、表のなかでは組合わ

Indexing および検索の段階で、必要があれば組合せ を行う。 このような方式をPost-coordinate方式と呼 ぶ、Post-coordinate方式では、並行分類を必要とし ない。したがって下層における分類項目数は少なくてす

分類表に採りあげられている視点の種類が多ければそ 然ひとつの場所にしか置けない。したがって、ひとつの の利用範囲は広くなり、少なければ利用範囲は限定され 資料または資料群は、ただひとつの分類項目に属し、同 る。前者は普遍分類法であり、後者は偏向(Slanted)

## (1) Pre-coordinate 方式

図3に分類法作成の考えかたを示す。 ここで視点およ 分類法の段階および項目数は、主として取り扱う対象 (群)の数による。この分類法の作成は,展示構成にお 作られたものである。このように、表のなかにあらかじ ける展示項目設定、収蔵室および収蔵区分の設計のため、 必ず行う必要がある.

資料の収蔵・排架と展示とは、目的が異なる。 したが 階層内において、分類の第2階層では、北海道……九州 って、両者に共通の分類法が適用される可能性は極めて が並ぶことになる。このような分類法を並行分類法とい 少ない、収蔵・排架のためと、展示のためには、多くの う。Pre-coordinate方式の分類法では,並行分類が必 場合, それぞれ個有の分類法を作成する必要がある。収 ず生じることとなり、その結果、下位の分類項目の数は 蔵・排架は、後に資料を利用するため、資料の物理・化 学・生物学的性質を保つこと、および資料を取り出しや 生物区分と地理区分のいずれを第1階層の区分法とし すくすることが目的である。前者のためには、資料の物 て採用するかは,全く便宜的に決められることであって, 理・化学・生物学的性質により,収蔵室に要求される大 きさ位置および環境条件が異なる。このことと収蔵施設 資料の検索を行うには、利用者が欲する分類項目を分 全体の効率的運用とを併せ考えて、分類法を作成しなけ 類表上でさがし、該当項目に属する資料の収蔵場所また ればならない、後者は、資料と収蔵位置の関係を示す目

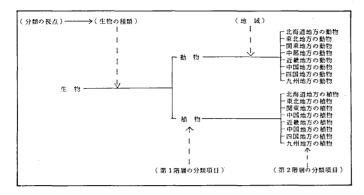


図1. 生物標本収蔵のための分類表

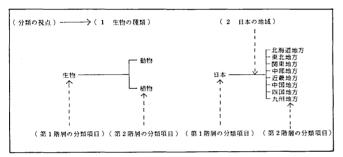


図 2. 生物標本情報検索のための分類表

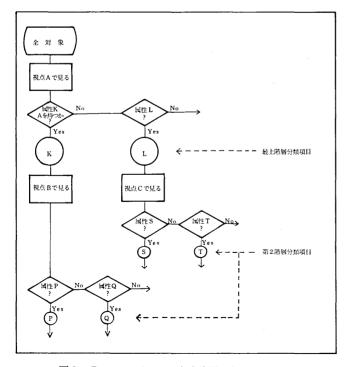


図 3. Pre-coordinate 方式分類の考えかた

録を整備しておけば、取り出しにあたって資料の保管場所に到達できる。したがって、収蔵・排架の分類法作成にあたっては、前者の要求にこたえることを優先すべきである。展示は、一般利用者に対して博物館が設定した意図的情報を伝える手段である。したがって、意図的情報の構成・構造にもとづいた分類法が作られる必要がある。

この方式の分類法による, Phase 2の 分類行動 2 (Identification または Indexing ) および Phase 3の分類行動 (Sorting, Arrangement)は, 分類 法の作成と同じ経路をたどって行われる.

## (2) Post-coordinate方式

図4の上半部に分類法作成の考えかたを示す。ここで、大項目としてなにを採用するか、および細分をどのように行うかは、分類の目的に合わせたPhilosophyによる。細分は、Post-coordinate方式であることに特に配慮して、必要最少限度にとどめる。細分段階の一部において並行分類を行うと、実用上便利な場合がある。

図4の下半部は、この方式の分類法を 用いて行う、Phase 2の分類行動 Indexing の考え方を示す。

Pre-coordinate方式の場合と異なり、すべての分類項目のそれぞれが、ひとつひとつの分類対象の属性を示すのに適当であるかを判断し、適当な分類項目のすべてを、その分類対象に付与すべきIndexとして採用する。

実際の Indexing においては、まず、ひとつの大項目が対象に付与すべき Index の概念を包括しているか否かを調べる。包括していれば、その大項目に含まれるすべての中項目のそれぞれについて、同様の操作を行う。この操作を、下位項目について順次行う。包括していなければ、その項目に属するすべての下位項目は、Index として採用しない。

Post-coordinate 分類表を実用する には、コンピュータ等の機械を利用する のが現実的である。

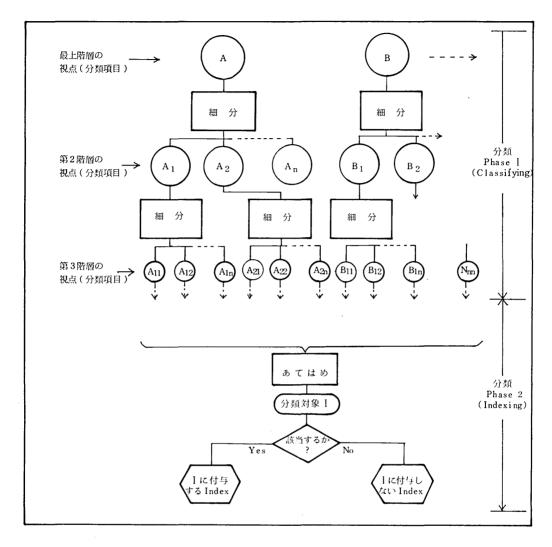


図4 Post-coordinate方式分類の考えかた

## 6. 情報検索用分類作成上の留意点

情報検索用分類を作成するたあたっては、次のような 点を配慮すべきである。

まず、使用目的を明らかにし、これに合わせて視点・ 概念の取捨選択をする必要がある。また、分類の段階数 のうち、0 は上位項目の"一般"を、9 は 1 ~ 8.(X, • 項目数は、対象とする資料数に合わせて決められなく てはならない。各分類項目を示すコトバは、必ずしもひ で細分項目を10まで設けられるからといって,必ずしも とつの単語でなくても差支えない。(例:殺菌剤による 防除)分類項目には、1対1対応の符号を与え,Indexing を作っておくことが適当である。 作業およびその後の処理をたやすく行えるようにする。

符号としてローマ字等の文字でなく主に数字を用いた十 進数形式は種々の点で便利な方法である。

この形式では, ある段階における細分項目数は, 最大 10である。もし、10を少し超えるときは、0,1,2,… …, 7,8,X.Y,Z,9とする。一般に符号(分類標数) Y,Z)以外のその他のことをあらわす。ただし、各段階 0~9をすべて使用する必要はない。2~8のうちアキ 例:319 微生物の生産

3190 同上一般

3191 分離, 検索

3192 培地調製・殺菌

3193 菌の接種

3199 その他

9か多く用いられるようになったとき、これを細分し、

3194 培養条件の管理

3195 菌体の収集

## のように項目数を増やしていけばよい.

最後に注意すべきことは、不必要な細分はしないこと である。それには、まず粗い(段階数の少ない)分類を 作ってみて、実際に試用してみた後、必要が生じた後に 細分していくことが望ましい.

# 7. 農業博物館において情報検索に用いる分類法 の原型 ——農業技術主題分類法 1) —

### (1) 目 的

に使用することを目的とする.

する要素技術に着目して, 各要素技術のウェイトおよび 要素技術間の関係を定量的に解析して、複合技術の構成 その結果、本分類法が、農業技術の構成と構造を解明す と構造をあきらかにすることである。

このためには、技術の要素となる事物の概念を整理し 系統立てた分類法が必要である。この要求にこたえて作 成されたもののひとつが、農業技術主題分類法である。

## (2) 基本的な方針

は、生物および無生物である有体物が主体である。エネ ルギーと情報は、有体物ではないけれども、農業技術商 業技術を実際に適用するための機器である。したがって、 用の対象と結果であるから、これらを有体物とあわせてまとめ 収蔵資料について、農業技術の内容からの検索が必要と る。3の技術には、農業技術の特性を考慮して、生物技 なる。 術だけでなく、工学技術、社会科学的技術、自然科学お 用する場所および時・時間の問題を含める.

1と2は、まとめてひとつの大項目とする。4はひと ると考えられる。 つの大項目として独立させる。 3は、本分類法の中心的 な部分であるので、これを分けていくつかの大項目とす れたものであって、博物館資料を対象とする場合には、 3.

ケタとする.

## (3) 構成の概略

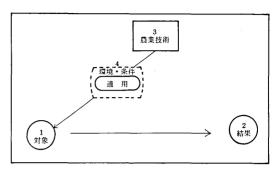


図 5. 農業技術のとらえかた

農業技術主題分類表の各大項目名、大項目別の下位項 目数を表 2 に、 概略表 (中項目まで)を表 3 に、 細分例 を表 4 から表 6 までに示す。本分類表には、和文のテキ ストの他、英文テキストおよび和文の五十音順索引が付 されている.

## (4) 分類法の使用

農業技術主題分類表は、「データベースを利用した農 要素技術連関解析の手法 $^{2}$ を農業技術へ適用するため 業技術における要素技術連関解析  $^{3}$  に使用した。日本 の国立農業研究機関で、1980年および81年度に実施さ 要素技術連関解析とは、複合技術についてとれを構成 れた研究課題約6,000件について、研究の概要説明を Indexing し、データベースを作成し、解析を行った。 るうえで有用なことが明らかになった。

## (5) 農業博物館への応用

農業博物館は、農業技術に関する調査研究、資料の収 集・保管・公開利用を行う、そこにおける調査研究は、 農業技術全体およびひとつひとつの農業技術に関する発 農業技術を、図5のように捉える、図中の1および2 達過程等をあきらかにし、将来の農業技術に役立てるこ とが目的である。 そして、博物館資料の主なものは、農

農業技術主題分類法は、その使用結果から農業技術の よび社会科学を含める。4の環境・条件には、技術を適 構成と構造を解明するうえで有用であった。したがって この分類法は、農業博物館において応用する可能性があ

しかし本分類法は、技術の内容を取り扱うために作ら 若干の改訂が必要である。そのうち最も重要な点として 分類法の構造は、Post-coordinate 方式とし、部分は、図書でいう書誌事項に相当する資料事項との関連づ 的にはPre-coordinate 方式を併用し、10 進数形式 4 けがあげられる。農業技術主題分類表の構成と構造から みて, この改訂は比較的容易に行い得ると考えられる。

農業博物館において情報検索を行うシステムに対して

大 項 目 名	大項目	中項目	小項目	細項目
場所 <b>,</b> 条件	1	1 0	5 8	3 1 5
生物,物質,機器,プラント.エネルギー,情報	1	1 0	6 9	518
生物科学	1	7	2 1	9 9
生物技術	1	8	4 0	2 2 5
総合問題,関連分野	1	7	2 8	118
物質科学	1	8	4 7	1 3 1
物質処理,物質加工,運搬,貯蔵	1	7	3 4	1 0 9
エネルギーの技術、情報の技術	1	5	2 7	7 4
· 合 計	8	6 2	3 2 4	1,5 8 9

表 2. 農業技術主題分類表(大項目名,分類項目数)

## 表 3. 農業技術主題分類表(概略表)

20 生物科学一般

38 衛生,公衆衛生,薬学

総合問題. 関連分野

51 開発,地域に関する問題52 生活,生活技術

災害とその防止

5 4 警察,消防,防衛,安全

1	0	場所,条件
	0 0	同上一般
	0 1	陸地, 気候帯
	0 2	水圈,海洋,淡水域
	0 3	空間
l	0 4	海域
	0 5	生物栽培、飼育の場所
	0 6	世界の各地
	0 7	日本の各地
	0 8	有史時代,時間,量,質
	0 9	相,形状,物理化学的条件
	1	生物,生物の細胞・組織・部位・器官,物質,
		機器,プラント,エネルギー,情報
	1 0	同上一般
	1 1	微生物•植物(分類学的分類)
	1 2	動物(分類学的分類)
	1 3	生息地别生物分類,利用目的別生物分類,有害生物
	1 4	生体関連物質,細胞,組織,生物の部位・器官
	1 5	物理•化学物質
	1 6	資源的物質
	1 7	用途別物質
	1 8	食品
	1 9	部品,機械,プラント,エネルギー,情報

生物科学

53 公害(原因が人為的なもの)とその防止,自然

21 生物学, 古生物学, 分類学, 解剖学, 形態学,

5

50 同上一般

5 5	経済,経営,規格,標準,検査	7 0	同上一般
5 6	法律,制度,行政,社会,社会福祉,職業,産業	7 1	資源探索· 資源採取
	(五年) (1)人) [1]人) [1]	7 2	物質製造
6	物質科学	7 3	物質の使用価値
6 0	同上一般	7 4	不要物・有害物の技術
6 1	数学	7 6	物質加工
6 2	天文,測時	78	運搬, 貯蔵
6 3	物理		
6 4	化学	8	エネルギーの技術,情報の技術
6 5	結晶・鉱物学	8 0	同上一般
6 6	地学	8 1	エネルギー変換,不要エネルギー処理
6 7	<b>気象,気候</b>	8 2	エネルギー輸送,エネルギー貯蔵
		8 6	情報の単位処理・総合処理
7	物質処理,物質加工,運搬,貯蔵	8 7	情報管理,コミュニケーション

表 4. 農業技術主題分類表(細分例-1)

0517	公園, 緑地	0 6 1	ヨーロッパ	0 7	日本の各地
0518	林地, 林野	0 6 1 0	同上一般	070	同上一般
0 5 1 9	その他			0700	同上
		0 6 2	アジア(日本に限る場合	0709	日本の各地その他
0 5 2	動物飼育の場所(魚類を		07)		
	除く)	0620	同上一般	0 7 1	北海道地方
0520	同上一般	0 6 2 1	東アジア(日本,韓国,	0 7 1 0	同上一般
0 5 2 1	屋外飼育場		北朝鮮,台湾,中国)		
0 5 2 2	畜舎	$0\ 6\ 2\ 2$	東南アジア	072	東北地方
0 5 2 3	養鶏場, 鶏舎	0 6 2 3	その他のアジア(ソ連領	0720	同上一般
0 5 2 4	蚕室		アジアを含む)	0721	青森県
0525	養蜂場			0722	岩手県
0526	観賞用動物の飼育場	0 6 3 0	アフリカ	0723	宮城県
0527	実験用動物の飼育場	0 6 3 0	同上一般	0724	秋田県
0529	その他			0725	福島県
		0 6 4	アメリカ	0729	その他
053	漁場, 水棲生物の飼育場所	0 6 4 0	同上一般		
0530	同上一般	0 6 4 1	北アメリカ	073	関東地方
0531	漁場	0 6 4 2	中央アメリカ	0730	同上一般
0532	水産増養殖場	0 6 4 3	南アメリカ	0731	茨城県
0539	その他			0732	栃木県
		065	オセアニア,南極大陸	0733	群馬県
0 6	世界の各地	0650		0734	埼玉県
060	同上一般	0 6 5 1	オセアニア	0735	千葉県
0600	同上	0 6 5 2	南極大陸	0736	東京都
L				l	

## 表 5. 農業技術主題分類表(細分例-2)

表 5.					
1 2 5 9	その他	1327	飼養動物,家畜		
		1329			
1 2 6	哺乳動物				
1 2 6 0	同上一般	1 3 3	作物(工芸作物→134,果樹→135)		
1 2 6 1	ゲッシ類		同上一般		
1 2 6 2	ウマ、その他の奇蹄類	1331	雑穀		
1 2 6 3	ウシおよび大きな反すう動物	1 3 3 2	豆類		
1 2 6 4	ヒツジ、ヤギ、その他の小さな反すう動物	1 3 3 3	根菜		
1 2 6 5	ブタ	1334	果菜		
1 2 6 6	クジラ類,海獣類	1 3 3 5	葉菜,茎菜,花菜		
1 2 6 7	ヒト	1336	その他のそ菜、そ菜一般		
1 2 6 8	その他の霊長類	1 3 3 7	飼料作物		
1 2 6 9	その他	1338	肥料作物		
		1 3 3 9	その他		
1 3	生息地別生物分類,利用目的別生物分類,				
	有害生物	1 3 4	工芸作物		
1 3 0	同上一般	1340	同上一般		
1 3 0 0	同上	1341	デンプン料作物		
		1342	油料作物		
1 3 1	生息地別生物分類	1343	糖料作物, 甘味料作物		
1 3 1 0	同上一般	1344	香辛料作物,嗜好料作物		
1 3 1 1	水棲生物	1345	薬用植物		
1 3 1 2	林地生物	1346	繊維作物		
1 3 1 3	土壌生物	1347	ゴム料作物		
1 3 1 5	野生生物	1 3 4 9	その他		
1 3 1 9	その他				
		135	果樹, その他の有用樹木 (132/4を除く)		
1 3 2	利用目的別生物分類(有用生物一般→165,	1350	果樹一般		
	作物→133/4, 果樹→135 )	1351	仁果果樹		
1 3 2 0	同上一般	1352	準仁果果樹		
1 3 2 1	実験微生物	1353	核果果樹		
1 3 2 2	実験植物	1354	<b>漿果果樹</b>		
1 3 2 3	実験動物	1 3 5 5	堅果果樹		
1 3 2 4	観賞用植物一般	1 3 5 6	その他の果樹		
1 3 2 5	観賞用木本	1 3 5 8	その他の有用樹木		
1 3 2 6	観賞用草本	1 3 5 9	その他		
		·			

# 表 6. 農業技術主題分類表(細分例-3)

3 1 6 4	細菌による病災害	3 1 9 9	その他
3 1 6 5	菌類による病災害		
3 1 6 6	その他の植物による病災害		
3 1 6 7	昆虫による害	3 2	水産技術,動物(哺乳類と鳥類を除く)
3 1 6 8	その他の動物による害		飼養技術
3 1 6 9	その他 (原因不明を含む)		
		3 2 0	同上一般
3 1 7	植物の病災害防除	3 2 0 0	同上
3 1 7 0	同上一般		
3 1 7 1	物理的防除	3 2 1	漁労
3 1 7 2	生物的防除	3 2 1 0	同上一般
3 1 7 3	殺菌剤による防除	3 2 1 1	漁況
3 1 7 4	殺虫剤による防除	3 2 1 2	魚群探知
3 1 7 5	除草剤による防除	3 2 1 3	網による漁労
3 1 7 6	その他の化学的防除	3 2 1 4	針・もりによる漁労
3 1 7 7	農薬施用法	3 2 1 5	その他の漁獲法
3 1 7 9	その他	3 2 1 9	その他
3 1 8	林業技術(一般的な植物栽培技術に含まれ	3 2 2	水産増養殖(水産植物を含む)
	るもの→312,313,315/317)	3 2 2 0	同上一般
3 1 8 0	同上一般	3 2 2 1	幼期水産生物採捕
3 1 8 1	施業方式	3 2 2 2	採卵,繁殖
3 1 8 2	天然育林	3 2 2 3	ふ化,飼育
3 1 8 3	人工育林	3 2 2 4	水産土木,増養殖場の整備,増養殖設備の
3 1 8 4	測樹		整備
3 1 8 5	林分測定	3 2 2 5	給餌, 施肥
3 1 8 6	施業計画	3 2 2 6	収穫
3 1 8 7	伐採	3 2 2 9	その他
3 1 8 8	林業土木		
3 1 8 9	その他	3 2 3	魚類の病災害と防除
		3 2 3 0	同上一般
3 1 9	微生物の生産		
3 1 9 0	同上一般	3 2 4	養蚕、養蜂、その他の昆虫飼養
3 1 9 1	分離,検索	3 2 4 0	同上一般
3 1 9 2	培地調製・殺菌	3 2 4 1	催青
3 1 9 3	菌の接種	3 2 4 2	上簇,営けん
3 1 9 4	培養条件の管理	3 2 4 3	蚕種、種まゆ
3 1 9 5	菌体の収集	3 2 4 4	給餌
		l	

が必要となる。

筆者は、農業技術主題分類表の仮改訂を行い、 これを 用したうえで、本格的な改訂を行って、日本国内の博物 学芸職員の協力が行われなければならない。 館に所蔵されている農業技術資料に関する情報のデータ ベース化を順次行う予定である。

## 8. おわりに

博物館の資料は、これを館の学芸職員や外部の多くの (1) 吉村典夫:農業技術主題分類表 東京 1983 大きな意義がある。そして、外部の利用者が行う資料利 用は、あらかじめ館が設定したストーリーにもとづいた。 展示を観覧することにとどまってはならない。ひとつひ とつの資料から得られる情報の量は膨大であり、しかも (3) 吉村典夫:データベースを利用した農業技術におけ 多岐にわたる. これらの情報を, できるだけ多くの視点 から検索できるように整備しておくことが、博物館の重

は、多面的でしかも論理構成をもった検索の実行が要求 要な責務である。そのためには、博物館において、なる されるため、コンピュータを利用することが現実的であ べく多くの視点を網羅した Post-coordinate 分類法を ろう。しかも農業の地域的特性等から考えて、漢字処理 考案作成し、これを用いて資料の持つ情報分析を行って おくことがまず必要である。

博物館における分類法は、学術分野の壁を超えて、で 用いて東京農業大学農業資料館が保有する農機具資料約 きるだけ多くの博物館に共通なものであるように標準化 3,500 点に関するデータベースを作成し、情報検索に試 されることが望ましい。そのためには、多くの博物館の

> 本報告の作成にあたって、五十嵐瞳氏(農林水産技術 情報協会)の協力を得た、感謝の意を表する。

### 文 抽

- ひとびとによって効果的に利用されることに、その最も (2) Tuneo Yosimura: Analysis of Relationships Among Technology Elements (ARATE) and Its Application to Agricultural Fields. Library and Information Science, 22, 211-227 (1981)
  - る要素技術連関解析。文部省科学研究費-般研究B, 1981~1982年度